

ときがわ町水道審議会会議録

会議の名称	令和5年度第1回ときがわ町水道審議会
主な議題	委員の委嘱書交付 諮問 議事 (1) 会長の選出 (2) ときがわ町水道事業経営戦略の改定について (3) その他
開催日時	令和5年7月26日(水) 開始 13時30分 終了 14時40分
開催場所	ときがわ町役場第二庁舎 3階協議会室
会議録の公開(非公開・一部非公開)とその理由	公開
出席者	神山俊委員、田中紀吉委員、岡本忠委員、前田郁子委員、鈴木喜弘委員、戸口隆雄委員 渡邊一美町長、水道課伊得正巳課長、小林大介主幹、小輪瀬泰主任
審議等内容又は概要	委員の委嘱書交付 ・ 渡邊一美町長から新委員に委嘱書交付 ・ 渡邊一美町長あいさつ ・ 町長から副会長へ 「ときがわ町水道事業経営戦略の改定について(諮問)」 (終了後、町長退席)
	議事(1) 会長の選出 協議の概要 神山副会長が議長として進行し、委員の互選により次のとおり決定する。 会 長 鈴木喜弘委員 (鈴木会長に議長交代)
	議事(2) ときがわ町水道事業経営戦略の改定について 議 長 鈴木喜弘議長 説明者 事務局

説明の概要 資料No.1、資料No.2 により、ときがわ町水道事業
経営戦略の改定について事務局が説明

質 疑

委 員 平成 31 年に経営戦略を作って 5 年たった。事務局的には
今、その経営戦略についてどう思っているか。

事務局 料金改定の審議のときにもお話したが、既に計画との
差が生じてきている。具体的には、先ほどご説明した料金
収入が思った以上に減少している。なおかつ、令和 3 年度
については、企業が進出してこなかったため、大きく落ち
込んで計画との差が生じている。それから、令和 3 年度に
櫛平浄水場の改築工事を緊急的に行った関係もあり、これ
もまた計画と乖離している。主だったものだけをお話しし
たが、そういった乖離をされていて収支のバランスが崩れて
きている。そういう所もあるので、計画に沿ってやってき
たが、どうしても乖離が出てきてしまった。ここで見直し
が必要ではないかということで、ご審議いただくということ
になった。

議 長 今回は、これまでの現状分析ということなので、今後の
P D C A、乖離の検証という話も事務局からあったが、具
体的なそのあたりの意見というのは、次回以降丁寧に質問
ないし回答をいただければいいのかなと思う。実際、P D
C A サイクルをまわす、乖離に対して何らかのアクション
をして、サイクル自体が継続的にまわるような対応をして
いくという事務局からの説明もあった。そこは私自身も水
道事業は 100 年、200 年も未来につながっていくものなので、
途切れさせない事業、24 時間 365 日ということになること
を念頭に置いて、今後どうあるべきかというところを貴重
なご意見等いただけたらありがたいと思っている。

事務局 補足的にお話しさせていただきたい。先ほど話も出たが、
料金改定の答申の付帯意見の中にもあったとおり、有収率
の向上を最重要課題として、向上に努めてほしいというご
意見があった。今年度、人工衛星画像を A I で解析した漏
水調査を始めた。これは、ときがわ町が昨年 4 月 1 日から
過疎地域に指定され、その中で過疎地域持続的発展支援交
付金が適用になるということで、補助率 10 分の 10 の町の
持ち出し一切なしででき、金額でいうと 544 万 5 千円。こ
れは、単独で行うと 1 千万円以上かかる。何かもっと安く

できないかと考え、近隣の町と一緒にやらないか声掛けをして最終的には小川、嵐山、ときがわ、越生の4町で協調発注をした。約半額にすることができて、なおかつ交付金でできるというものを手掛けている。先週18日にその衛星画像と漏水範囲を示した報告書が上がってきて、説明を受けた。半径100mの円上に、この路線が漏水している可能性が高いというものが成果品として出てきた。それが、ときがわ町全体で48ヶ所あった。それを今度は、その地域をしぼって音聴で調査する。それも既に業者と契約していて、来週31日から調査に入る。そうすれば、来月くらいまでには成果が現れてくるのではないかと期待しているところである。先ほど委員からも話があったが、昨日も長野市でそういった手法をやって、衛星の画像で分析した漏水調査を行っているというのをテレビでも放映されている。全国的には何十ヶ所とやっているが、県内では今のところ最初ではないかと思う。これが有収率の向上につながればということで、順次報告をしていく。

議長
委員
事務局

今の件について、何か質問はあるか。

正確性は。

業者側からの説明でいうと、半径100m内の確率とすると約9割である。そのかわり、ぼたぼたの小さな漏水までわかる。2次側、メーターから先、宅内の漏水も2割くらいそれに含まれてしまう。全体でいうと、発見された割合で給水管が8割、1割が本管、残りの1割が2次側で漏れているというのが、今までのデータ解析だとそういう実績である。なかなかそれを言われても、少しの量を音聴で探すというのは至難の業であり、そこはいろいろと対応を考えなければいけないと思う。ただ確率的にはそのようなことである。まだこちら音聴調査をやっていないのでわからないが、他の事業体のデータでいえば確率的な話とすると3割程度と言っていた。全体の48ヶ所のうち、見つかるのは3割くらいである。他の事業体の結果だと、そういうことだそうである。

議長
事務局
議長

漏水量はわかるのか。

漏水量はわからない。

たとえばそのあたりが著しく温度が他と比べて下がっているから漏水量が多いのではといったことはわからないのか。

事務局　そこまではわからない。具体的な話をすると、人工衛星からLバンドを地上に照射して、その跳ね返りのデータを解析する。それが自然の地下水なのか、下水なのか、水道水なのか、それも照射の跳ね返り具合でわかる。ただ、地球と人工衛星の距離があるので、その制度はどうしても誤差が出てくる。

議　長　有収率の向上が経営に直結するのは事実である。埼玉県もそうだが、管の老朽化自体が進んでいる。直すのがいいのか、取り替えるのがいいのか、読んでいただいている方はそのあたりの記載もあったと思うが、ときがわ町もそれは苦慮している部分である。もつ管はそれこそ100年という管もあり、材質や径によって、法定耐用年数ではなく実際にどれだけもつかというのを検証するのも大切だと個人的に思っている。そういうのも含めて、経営戦略なのでより良いものになるといいと思う。他に何か質問等あるか。

委　員　素朴な疑問だが、日本は電柱も含めて地中化という視点が欠けている。ヨーロッパは地下にみんなもって行って水道も電気もそこで1つでいっている。中心となるところは共同管にするなどして更新も管理も目指さないとと思っている。

議　長　ニュースなどでもあるが、100年1サイクルが回せるかどうか。現実的に管が100年もつとして、100年で1回りすればいいというのがある意味理想ではある。管の法定耐用年数は40年だが、そういうのではなくて実際は本当にもつべき年数を、様子や検証をしながらだが100年で回すとなったら結構厳しいというのはある。電気やガスのインフラが共同口で全部地下に入ればいいが、事業主体が違ったり、受益者の切り分けが難しかったり、工事費をどう折半するかという話がある中で現実的には厳しい。他に何か質問等あるか。

(なし)

議　長　では、特に討論や意見等ないようなので、討論についてはこれで終了する。

	<p>議事（3）その他 今後の水道審議会の開催予定について 説明者 事務局 説明の概要 次回の審議会の日程だが、10月の中旬で調整したいと考えている。具体的な日程については、また後日ご連絡させていただく。</p>
	<p>閉会 神山俊副会長閉会あいさつ</p>
<p>配布資料</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・ときがわ町水道審議会委員名簿（案） ・参考資料 ときがわ町水道ビジョン ・資料No.1 ときがわ町水道事業経営戦略（改定版） 「1. 計画の背景と目的」～「4. (4) 経営比較分析表を活用した現状分析」 ・資料No.2 今回の経営戦略改定の考え方